

---

# 平成 30 年度 東京未来大学入学式

## 学長式辞

---

皆さん、入学おめでとうございます。

東京未来大学への入学を心より歓迎すると共に、本学を選んで下さった皆さんの期待に添えるよう、我々教職員一同しっかりと皆さんを支援していきます。

### ■大学で学ぶということ

皆さんはいま入学の認証を受け、東京未来大学学生となりました。明日からは早速大学生としての学びの準備に入ります。ところで、大学で学ぶということは、いったいどのような意味をもつのでしょうか。

学ぶこと自体は、その気になればいつでもどこでもできることです。インターネットにアクセスすることが当たり前になっている今の世界では、スマートフォンさえあれば、瞬時と言ってよいくらいの時間で、ほしい情報が簡単に手に入ります。そこから多くの知識を得ることもでき、新しい興味や関心も広がります。学ぶことに時間や国境はないといえます。

けれども、インターネットで得た情報が本物であるかどうか、正確な根拠に基づくものであるかどうかは、定かではありません。不正確な情報に基づく個人攻撃でブログが炎上し閉鎖されるといったことも、最近では珍しくありません。また、先のアメリカ大統領選挙以来、フェイク・ニュース、偽物のニュースという言葉も世界的に広まっています。いったい何が本物であり、何が偽物（フェイク）であるか、どう判断すればよいのでしょうか。

これから皆さんが授業の中で学んでいく知識は、専門的な研鑽を積んだ教員が提供していく、根拠のある知識です。私たち教員は、研究の世界で、あるいは実務の世界で研鑽を積み、そこから得た知識や考え方、ものを見る視点を、皆さんに伝えています。もちろん、その中には今後の学問の発展の中で反証され、修正されていく知識もあるでしょう。科学哲学者のカール・ポパーは、「反証する方法や手続き（これを反証可能性といいます）をもたない仮説は独断的な言説（こ

れをドグマといいます) であって、科学ではない」と言っています。私たちはそうしたことも見据えながら、学生の皆さんにももの考える視点やものを見る視点を伝えています。

大学での学びは、根拠のある知識を身につけ、論理的に物事を考え、起こっている現象を客観的に見ることのできる視点を身につけることと言えます。そして、それらを駆使して自分で判断し、動くことができるということです。

こうしたことを、これからの学びの中で身につけていって下さい。そして、皆さん自身の中に、本物と偽物を区別でき、物事の本質を探る思考の経路を育てて下さい。それが自信と行動力につながります。

## ■大学生活の中で

大学は学問の場であると共に、さまざまな出会いの場でもあります。私は、まだ小学生の頃にある高名な童謡詩人と話したことがあります。その方が書いて下さった色紙の中に「幼年は花咲き、青春は鳥歌う」という一節がありました。60年近い昔のことなので、今となつては古めかしい言葉に聞こえるかもしれませんが、皆さんは、いままさに鳥歌う青春の中にいます。大学では生涯の友人に出会うかもしれません。あるいは生涯の伴侶にも出会うかもしれません。未来祭や三幸フェスティバルなど、学生が主体となるさまざまなイベントも、一人一人の中に感慨や感動を生むことでしょう。

もちろん、喜びや楽しみの出会いばかりではありません。言いたいことをうまく表現できない悔しさ、自分の気持ちをわかってもらえない辛さ、些細なことがきっかけで友人と喧嘩別れしてしまうこともあるかもしれません。成長していく中での悩みもあるでしょう。そうした楽しさ、つらさ、甘さ、苦さ、一切を含めて、鳥歌う青春を謳歌して下さい。

ただ、誤解しないでもらいたいのは、四六時中羽目を外して楽しみなさいということではありません。皆さんが大学で学ぶことができるのは、大学生としての皆さんを支え、支援してくれる保護者、家族がいるからであることを、忘れないで下さい。経済的な支援、物質的な支援、精神的な支援など、皆さんを支えてくれる人たちがいて、皆さんはこれから大学生活を送ることができるのです。学ぶ気持ちと共に感謝の心も忘れないで下さい。

## ■諦めないということ

もう一つ、皆さんの胸に刻んでおいてほしいことがあります。東京未来大学の教育目標は「技能と心の調和」です。これは、心と磨いた技能をうまく調和させて活かすことを意味しています。真理を探究する心、他者を思いやる心、感動する心をもつこと、そして、身につけた知識や経験を活かして、その心をさらに豊かなものに磨いていくこと。その技能と心の調和を、生活の場での実践に活かしていくことで、大学での学びが真に意味をもってくるのです。

そしてもう一つ、本学では「あきらめない教育」をモットーに掲げています。私たち教職員一同、この教育モットーの下に学生一人一人に寄り添うアドバイスや支援を行っています。その中心にいるのは、キャンパス・アドバイザー（CA）です。このCA制度は、他大学の追随を許さない本学が誇る制度です。CAはクラス担任教員と共に、皆さんの勉学や大学生活におけるアドバイスと支援を行います。悩み事や心配事があれば身近にいるCAに相談してみてください。

けれども、皆さんを支援するということは、手取り足取り、オンブにダッコで面倒を見るということではありません。ここをはき違えると、大学生活を通じての皆さんの主体性が育たなくなってしまいます。皆さん自身が努力し、主体性をもって勉学に取り組み大学生活を送ることで、私たちも皆さんの後押しができるのです。

皆さんの気持ちが萎えてしまったとき、もうすべて投げ出したくなったと思うようなときでも、私たちはあきらめることなく皆さんを支え続けます。けれども私たちの支えが生きてくるのは、皆さん自身があきらめない心をもっているときです。皆さん自身がまた努力する心を取り戻し、もう一度目標に向かって進もうという意欲を沸き立たせたときです。そのために私たちは努力します。ですから皆さんも、苦しいことがあってもあきらめることをせず、前に進んでいって下さい。あきらめなければ道は開けます。

## ■豊かな大学生活を送るために

私は研究者として長い間、モチベーションをテーマに研究を続けてきました。モチベーションとは目標達成に向けて私たちを行動に駆り立てる心理的なエネルギーです。ですから、モチベーションには必ず向かうべき目標が存在します。別の言い方をすれば、目標のないところにモチベーションは存在しません。目標があつてこそ、モチベ

ーションが生まれるのです。

皆さんはどんな目標をもっているでしょうか。ずっと先の目標、まだぼんやりとした目標かもしれません。大学生となった今日、まずはこれから4年間の目標を立ててみてはどうでしょうか。目標があるところに行動が生まれます。目標が人を動かします。できれば具体的な目標を、今日から目ざすことのできる具体的な目標を立ててみましょう。そうすることで大学生活もきっと豊かなものになるはずです。

もう一つ、私から皆さんへのアドバイスです。ぜひ本を読む習慣を身につけて下さい。社会に出て働き始めると、読書をするまとまった時間はとりづらくなります。ぜひいまのうちに読書に親しんで下さい。読書は人を育てます。

全国大学生生活協同組合連合会が今年発表した、ちょっとショッキングなデータがあります。この連合会が大学生1万人を対象に行った調査結果によれば、大学生の一日の読書時間は平均23.6分、一日の読書時間がゼロ分の割合は53.1%ということです。つまり、大学生の二人に一人は、一日のうちでまったく本を読んでいないということです。皆さんはどうでしょうか。

今は読書の形態も変わり、IT端末で書籍を読むこともできます。けれど、私はできることなら昔ながらの紙の本を読んでほしいと思います。手に持って感じる重さは、内容の濃さにもつながっているかもしれません。装幀の工夫に思わずにやりとすることもあるかもしれません。本学の図書館は、皆さんの先輩たちが、授業の参考文献探しや卒業論文作成作業、また自らの興味や関心を満たすために、日々利用しています。私たち教職員も日々利用しています。読書は知識を増やし、心を豊かにします。「技能と心の調和」をはかる有効な手段でもあります。皆さんもぜひ図書館を利用し、本を通じての知との出会いを楽しんで下さい。

今日から大学生としてのスタートです。皆さんには洋々たる前途が開けています。東京未来大学での学びが皆さんの夢多き未来につながることを心より期待して、私の祝辞とします。

あらためて入学おめでとうございます。

平成30年4月2日 学長 角山 剛

角山 剛